

INFORMATION

鹿児島県小学校 社会科作品コンクール作品展

夏休みの社会科自由研究作品を募集・審査し、優秀な作品を展示する「鹿児島県小学校社会科作品コンクール作品展」が10月27日(日)から11月10日(日)まで当館で開かれます。毎年レベルの高い作品が並び、観光客の方にも「鹿児島の小学生は熱心。大人とは違う着眼点に驚きます」と毎年好評です。

鹿児島県小学校社会科作品コンクール展も、30回近くを迎えるました。本コンクールでは、小学生が、身近な生活や社会の中にある疑問に目を向け、自分たちの力で調査活動を行い、考察しまとめた作品がたくさん集まっています。

今年度、鹿児島市の3年生から6年生までの応募総数は、本研究会で把握しているだけでも、4,870点でした。年々応募総数は増加傾向にあります。ぜひ、コンクールに入賞した小学生の素晴らしい作品をご覧ください。

鹿児島県小学校教育研究会社会科部会会長 佐々木 幸男氏

温故地新

ふる故きをたずね、地元を新たに。

■MBCラジオ「賢治先生のふるさと歴史館」放送終了 平成25年4月から始まり、約6年半続いた「賢治先生のふるさと歴史館」ですが、令和元年9月28日(土)で最終回を迎えました。福田賢治前当館特別顧問の豊富な知識で鹿児島の歴史を分かりやすく、MBCのアナウンサー方とお送りしてきた番組でした。

当館はこれからも鹿児島の歴史を楽しく分かりやすくお伝えしていきます。

放送は336回にのぼった▶



■第12回 西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展

西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展は、郷土の偉人・西郷隆盛の人徳と偉業をしのぶとともに、郷土への関心を高めることを目的に開催していますが、今回で12回目を迎えました。

本年は、全国から2,053点の応募があり、鹿児島市との兄弟都市盟約50周年を迎えた山形県鶴岡市から

2019かごしまの新特産品コンクールに当館ショップから入賞

鹿児島の魅力を県内外にアピールする新商品の創造を目的に始まったこのコンクール。当館ショップから、3店舗受賞しました。



御茶碗屋つきの虫/Egg Cup
にわとり王国鹿児島の卵をリスペクトしたカップたち。



和くら/かごしまグッズ
かごしまならではの形をデフォルメしてかわいいマグネットに。



西日本印刷/
サツマのお祝い袋
桜島の水引き、さらには大島紬や薩摩切子など鹿児島のデザインを取り入れたお祝い袋。



維新
ふるさと
ショッピング

も28点の作品が寄せられました。

西郷南洲が没した9月24日をはさむ30日間、9月23日から10月22日まで当館で展示されました。

鶴岡市内2高校の生徒作品▶



■歴史シンポジウム 開催

鹿児島と鶴岡の兄弟都市盟約50周年にちなみ、薩摩と庄内の歴史的経緯や風土、教育、人材などの面から、友好150年継続の背景や県民性など多方面から友好継続の根幹をより深く明らかにしていきます。

【日時】令和元年12月8日(日) 13:30~16:30(予定)

【場所】サンエールかごしま

【出演】松尾千歳氏(尚古集成館館長)、

本間豊氏(公益財団法人致道博物館学芸部長)、

福田賢治(前当館特別顧問)、肥後秀昭(当館歴史解説員)

【申込】FAXかはがきで、住所・氏名・電話番号・参加人数を明記の上、当館へ。11月23日(土)必着



刀を鍔に持ちかえて
サムライ達が挑戦



平成元年に国史跡に指定された「松ヶ岡開墾場」は、令和3年に開墾150年の節目の年を迎えます。明治維新の変革期に戊辰戦争で敗れた旧庄内藩士3,000人が刀を鍔にかえて開墾し広大な桑畠を拓き、国内最大の蚕室群を建設した場所で、現在も当時の歴史的建造物の一部が残っています。この開墾は西郷先生の恩に報いるとともに、賊軍の汚名をそそぎ、産業を興し、社会の模範となり國の發展に貢献しようとの強い信念の下に行われた大事業でした。辛い開墾作業を励ましていただいた西郷先生からの「氣節凌霜天地知」という言葉はさらに開墾士達の心を奮い立たせたといいます。

この時期に桑の他にお茶の栽培にも挑戦し、先生からは栽培が順調に運んだ際の銘柄として「林月、水蓮、白露」などの名前をいただいていました。残念ながら寒冷な気候のために成功しませんでしたが、近年はお茶の栽培を復活させ、先生からいただいた名前を付けた銘

柄を世に出したいとの思いで専門家の指導を仰ぎながら取り組んでいるところです。平成29年に鶴岡を中心に栄えた絹産業に関わる文化財と物語が「サムライゆかりのシルク」として日本遺産の認定を受け、これまでにも増して視察や観光に大勢のお客様をお迎えしています。

来る開墾150年に向けて準備を進めておりますが、開墾の偉業を称えるとともに次世代に何を遺し、何を伝えるべきか、心に残るイベントなどを模索しているところです。中でも若い世代からは、先輩たちが行ってきた西郷先生の墓参並びに鹿児島の皆さんとの交流を行いたいとの意見があがり、そのための訪問を検討しているところです。鹿児島の皆さんには是非とも松ヶ岡開墾場においていただき、西郷先生が庄内に残してくださいました多くの業績に触れていただけましたらありがたいと思います。



文／堀 誠 氏
松ヶ岡開墾場理事長

鹿児島市・鶴岡市兄弟都市盟約50周年記念事業

サムライの シルク展

鶴岡・松ヶ岡開墾場にみる南洲翁の足跡

西郷隆盛

菅実秀

鹿児島市・鶴岡市兄弟都市盟約50周年記念事業
「サムライのシルク展」開催

期 間 令和元年
11月1日(金) ~ 12月31日(火)

鹿児島市と鶴岡市は「徳の交わり」を機縁とし、昭和44年11月兄弟都市盟約を締結、現在に至るまで交流が続いています。令和元年の今年、兄弟都市盟約締結から50年を迎えます。それを記念して、当館では11月1日(金)よりサムライのシルク展を開催中です。

歴史ゾーンでは松ヶ岡開墾場にみる西郷南州翁の足跡と庄内の人々の思いをはじめ、薩摩と庄内の交流の歴史を紐解きます。

現代ゾーンでは松ヶ岡開墾場で始められた養蚕から発展した「鶴岡シルク」と鹿児島の「大島紬」の歴史と現在を比較しながら紹介します。また、「北と南、シルクの競演」と題し、大島紬に鶴岡シルクのkibiso(キビソ)を織り込み、鹿児島と鶴岡の歴史から織りあげた生地をつくる初の試みに挑戦します。

※kibiso(キビソ)…繭から生糸を織り、糸口を探す時に出る副蚕糸で蚕が繭を作る際に最初に吐き出す糸のこと、通常の糸と比べ強度があるのが特徴。

北と南、シルクの競演

維新ふるさとショップでは、「サムライのシルク展」期間中、鶴岡シルクと大島紬を販売します。

県内ではなかなか目にできない貴重な作品が一堂に勢ぞろいします。デザインや質感もさまざまなストールや小物を是非ご覧ください。

期間中、鶴岡シルクのストール・小物など約60点、大島紬のストール・小物など90点が並びます。

詳しくは維新ふるさと館までお問い合わせください。



▲大島紬とは違う手ざわりの鶴岡シルク

維新歩く 庄内に残る西郷を訪ねる。

毎年大好評の維新ふるさと館「西郷どん」史跡めぐりバスツアー。今年は「鹿児島市・鶴岡市兄弟都市盟約50周年」を記念して鶴岡・酒田に残る「西郷の思い」を体感するために、山形県へ行きました。9月26日(木)から28日(土)まで、11名の皆様と西郷の思いを体感してきました。



▲国宝羽黒山五重塔にて

した。菅家庭園では、菅秀二氏による庭園の解説、南洲翁遺訓を編纂した部屋での南洲翁直筆の漢詩なども解説していただき、皆様感激されていました。羽黒山五重塔では、1・2階の扉を開いて内部を見学できる特別拝観の期間中で、貴重な経験ができました。

「3日間とも好天に恵まれ、詳しい解説つきでとても充実したツアーになった。このようなツアーをまた希望します」とのお声もいただきました。来年以降のバスツアーもお楽しみに。

今回の イチオシ

庄内と薩摩～庄内藩に愛された西郷南洲翁～

薩摩藩と関連のある長州や庄内・会津などの藩を紹介したコーナーに「庄内と薩摩～庄内に愛された西郷南州翁～」というタイトルの映像が放映されています。令和元年11月7日は、山形県鶴岡市と鹿児島市が兄弟都市盟約を結んで50周年の節目の日に当たります。そこで、交流に至る経緯を解説した映像の概要を紹介します。

戊辰戦争の契機となった庄内藩による薩摩藩邸焼き討ち事件をきっかけに、幕府と倒幕派の戦いが始まります。錦旗を掲げて政府軍となつた倒幕派の勢いに、大半の幕府軍が臣従、最後まで負け知らずで戦い抜いた庄内藩も遂に降伏します。厳しい処分を覚悟していた庄内藩ですが、西郷の意を受けた黒田清隆の温情ある寛大な処置を受け、明治になって、西郷と親しく接した中老・菅実秀は、その徳性に深く感動します。原野開拓を通して、国の産業振興に寄与し、賊軍の汚名をそそぎたいと、相談された西郷は「氣節凌霜天地知」との助言を与えます。約3千人の藩士たちは刀を鍔や鋤に変え、戦場に臨む覚悟で開墾に当たり、松ヶ岡開墾場における養蚕業が本格的に始まりました。また、採れた茶

葉の名称を依頼された西郷は、開墾に当たった6組の組頭の名を入れた茶名を贈ります。交流を続ける中で、征韓論争で野に下った西郷の下に、菅実秀以下7名が来鹿。西郷の偉大な徳性に触れた菅は以後も交流を続けていきます。そして西南戦争で憤死した西郷の遺徳を広く知らしめんと、明治22年、西郷の名誉回復を機に、その教えを「南洲翁遺訓」として編纂、全国各地に頒布して、その遺徳を広く知らしめました。これらを契機に鹿児島と山形の交流がその後も継続、昭和51年酒田市に南洲神社が建立されました。平成3年には、西郷と対談する菅実秀の銅像が武の西郷宅地跡に建立され、10年後には酒田市の南洲神社にも建立されるなど、相互の交流は今日に至るまで続いている。

思えば、北と南の敵対関係、互いに異なる歴史や県民性などを乗り越え、未だに続く2つの県の不思議なつながりに、なにかしらの因縁を感じます。この映像を御覧になって、改めて山形と鹿児島の交流のきっかけになった西郷南洲翁という郷土の偉人を偲び、互いの交流を今後も続けていくようにしたいものです。



敬慕の念



桑園
松ヶ岡開墾記念館



徳の交わり